

これに対して、この袋の中からカードを1枚ひくごとにその番号を記録し、それをもとにもどして、またよくかきまぜて1枚ひく、このような操作を1600回くり返して、カードの番号と同番号の生徒を抽出する方法もあります。このような抽出の方法を復元抽出法といいます。復元抽出法では、当然同じ生徒が二度以上当たることも考えられます。その場合には、その生徒が抽出された回数と同じ数だけ、その生徒の同じ測定値を提出します。

(方法3) この方法は、乱数表を用いて標本を抽出しようというものです。

乱数とは、

- どの数字も同じ確率で出現している。(等確率性または等出現性)
- どの数字も無規則に出現している。(無規則性)

の二つの性質を持った数の列で、これを表にしたものが乱数表です。(付表1)

手順1) 何らかの方法で、この一年生男子に1番から15,013番までの番号をつけておきます。

手順2) 乱数表を5桁ずつ区切って読み、その5桁の乱数が15,013以下のものを当り番号とし、その番号と同じ番号の生徒を抽出します。

このように説明しますと、簡単なようですが、実はそうではありません。この手順2)について、もう少しくわしく説明します。

○ まず、乱数表を開く場合に、何ページを開くかを決めなければなりません。例えば、パッとめくった乱数表の上に鉛筆を落として、それが3に当たったら3ページを選びます。乱数表が4ページしかないのに7の数字に当たったら、次に4以下の数字が現れるまで読みとばして、初めて4以下の数字に出会ったら(0ページはありませんから、0も読みとばします)、その数字のページを開くことにします。これを、読みとばし方式ということにします。

乱数表が4ページしかない場合

0	1, 2, 3, 4
9	5, 6, 7, 8

この読みとばし方式のほかに、余り方式というものがあります。それは、7を4で割りますと、余りが3ですから、3ページを選ぶ、という方式です。この場合、乱数表の1, 5が当たれば1ページ、2, 6が当たれば2ページ、3, 7が当たれば3ページ、4, 8が当